

日本の確かな将来選択のための図解集

原子力のない社会の実現に向けた道筋を探るため、原発事故から何を学び、どのような社会を選ぶのか？



教材として、
副読本として、
活用できます。

図解レポート

見ればわかる 知れば変わる — 福島原発事故15年の現在地 —

原子力市民委員会 著

A4 総44頁 / 頒価 500円
ISBN: 978-4-9912055-4-5
2026年3月11日発行



福島原発事故は数多くの課題を私たちに突きつけています。

被害の実態はどのようなものか。被災した人々が暮らしを取り戻すにはどうすればよいのか。

原子力技術の根本的な問題点は何か。原子力規制は十分に機能しているのか。

脱原子力社会に向けてどのような政策をとるべきか。

事故から何を学び、どのような社会を選ぶのか。これらが、いま改めて問われています。

本冊子では、原子力のない社会の実現に向けた道筋を探るため、

31点の課題を取り上げ、図表を用いてできるだけわかりやすく説明しました。

日本政府や電力会社が積極的には発信しない事実も多く含まれています。

それらを知る人々が増えることで、社会が変わることを願っています。

(本文「はじめに」より)

内容見本

簡潔な正文

厳選した図表

図表の引用元

整理された本文

CCNE各部会から26名が執筆し、各ページに図表を配置しました。本レポートに関する学習会などのご相談をお受けします。

より詳細な内容はURL参照

原子力市民委員会 (CCNE) とは？

原子力市民委員会 (CCNE) は、認定NPO法人高木仁三郎市民科学基金の特別事業として、2013年4月に設立された非営利の市民シンクタンクです。2026年3月現在、座長をふくむ8名の委員、3つの部会 (委員のほか延べ32名の部会員)、36名のアドバイザー、事務局数名で構成されています。総勢約80名の構成員は、研究者、技術者、法律家、医師、経営者、NGO職員、原発事故被害者など多岐にわたります。詳細はCCNEのウェブサイトに掲載しています。

ご注文・閲覧はこちらのQRから

